

3月に入ると多くの果樹類は萌芽～発芽時期を迎え、病害虫が活動を開始する時期となります。近年は高温による病害虫の発生時期・量の変化や、散布後の多雨といった極端な気象条件によって生育期に薬剤の効果が十分に発揮されないケースが増えています。生育期に多発生とならないよう、耕種的対策や生育初期の防除を徹底し、病害虫の密度を低下させましょう。

果樹全般

●耕種的対策（終わっていますか？）

罹病した葉や枝、落葉、枯れ枝などは病害の重要な伝染源となります。これらの除去は生育期の病害発生を抑えるための重要な作業です。2月号には作業項目のチェックシートを添付していますので参考にいただき、まだ終わっていない作業があれば今から必ず取り組みましょう。

露地カンキツ

●かいよう病対策

2月号でも述べましたが、発芽前（2月下旬～3月上旬頃）は特に重要な防除時期です。昨年本病が発生した園や風当たりが強い園、本病に罹りやすい品種（中晩柑類）の植栽園、幼木園、高接ぎ園は、IC ボルドー66D 60倍等を必ず散布してください。

ただし、発芽直前の散布は落葉を生じやすいため、樹勢が低下している樹への銅剤の散布は控え、これらの樹は樹勢の回復に努め、生育期の防除に努めましょう。

●黒点病対策

昨年は梅雨明けが早く夏期の雨量が少なかったため、本病の発生はやや少ない状況でした。一方、近年は極端な大雨の影響で薬剤防除だけでは対応が困難なケースが増えています。まずは、伝染源となる枯れ枝のせん除やせん定枝の除去・処分を徹底しましょう。また、切り株も伝染源となるため、伐根やビニル袋で被覆する等の対策をしてください。

●カイガラムシ類・ハダニ類対策

近年、露地カンキツでナシマルカイガラムシやアカマルカイガラムシによる果実被害が増加傾向にあります。昨年は秋以降に前述のカイガラムシが急増し、果実被害を生じた園地が散見されました。このような園地では越冬虫が増加している可能性が高いため、冬季にマシン油乳剤を散布出来ていない場合は発芽前の3月上旬頃にマシン油乳剤 97% 80 倍を散布しましょう。昨年発生が多かったハダニ類も防除ができます。ただし、銅剤との混用や近接散布は効果の低下や薬害の発生のおそれがあるため、散布間隔を2週間以上空ける必要があります。かいよう病対策が必要な園ではかいよう病の防除を優先し、4月のアプロードフロアブル 1,000 倍+マシン油乳剤 100 倍の混用散布で対応してください。

ナシ

●発芽前の病害防除対策

黒星病菌は展葉直後から感染し始めるため、発芽直前にキノンドーフロアブル 1,000 倍を散布します。スピードスプレーヤーで散布する場合は、全列走行でゆっくり散布してください。

本病原菌の生育適温は 20℃、胞子の発芽適温は 22℃とやや低温を好みます。ここ数年黒星病の発生は少ない傾向にありますが、前述のようなやや低温条件下で降雨が続くと多発生となることもあるため、油断せず防除対策に取り組みましょう。また、気温が高く推移し開花が早まることも考えられますので、気象庁の長期予報等をチェックし、計画的な薬剤防除を行ってください。

●白紋羽病対策

植え付け時に、フロンサイド SC 500 倍液を 50 L/樹、植え付けた苗の周囲（半径 50cm 程度）にかん注処理しましょう。特に、白紋羽病の影響で植え替えをする場合は、土壌の入れ替えや根の残さの除去を行い、植え付け後の薬剤かん注処理は、苗だけでなく周辺の健全樹に対しても必ず行いましょう。

ブドウ

●黒とう病対策

萌芽直前から萌芽極初期（3月下旬～4月上旬）の防除が重要です。この時期にキノンドーフロアブル 600 倍またはデランフロアブル 1,000 倍を散布してください。

ウメ

●黒星病対策

3月中旬にフロンサイド SC 2,000 倍を散布します。ただし、本剤は収穫 60 日前までしか使用できないことから、小梅など収穫時期の早い品種で使用する際は収穫前日数に注意してください。なお、4月以降に本剤を散布すると、果実に日焼けに似た症状の薬害を生じるおそれがあるため、3月中旬の防除のみに使用します。

●かいよう病対策

開花前から花殻離脱開始前までの防除が重要です。この時期に IC ボルドー66D 50 倍または Z ボルドー 500 倍を散布しましょう。散布時期は両薬剤とも「葉芽発芽前まで」となっており、幼果期に散布すると果実に薬害を生じることがあるので、散布時期に注意してください。本病が幼木で多発生すると、その後も発生が続いて防除が困難となります。幼木では特に防除を徹底しましょう。

モモ・スモモ

●細菌病対策

モモではせん孔細菌病、スモモでは黒斑病が問題となるので、露地栽培では開花直前に IC ボルドー412 30 倍を散布します。なお、展葉後に散布すると薬害（葉焼け）を生じるため、使用する時期には注意してください。

キウイフルーツ

●かいよう病対策

発芽前の防除には IC ボルドー66D 50 倍等を、発芽後の防除にはコサイド 3000 2,000 倍（クレフノン 200 倍加用）等を散布します。本病が発生していない圃場でも、予防のため必ず防除を行いましょう。

●キクビスカシバ対策

3月中下旬頃から幼虫が卵から孵化して新梢に食入します。食入された新梢は伸長が抑制され、枯死する場合があります。そのため、3月下旬と4月上旬の2回、フェニックスフロアブル 4,000 倍を散布します。幼虫が新梢内に入ってしまうと薬剤の効果が期待できないため、遅れないよう散布を行ってください。

